

No. 21

Jan. 2008

“あ”はすべての原点“そ”は蘇生。
阿蘇は原点に返って復活する場所。
素顔の阿蘇に触れ、
自分自身を探してみませんか。

素顔の**阿蘇**を探す旅。

大陸

ASO Continent



夢つくり、のんびり
阿蘇大陸

ゆっくりと、じっくりと

ロングステイが魅せる阿蘇 「おとなの長旅・九州」

人が自然と共存することで守られてきた阿蘇の美しい景色。
誰よりも阿蘇を慈しむ地元の暮しを味わいたいなら、
いつもより、少し長い時間をかけて滞在してみよう。
スロウな長旅だからこそ、見えてくるものがある。



五岳を眺めながら草原を馬でいく—このそう快感は他では体験できない

じっくりと、
阿蘇を味わいつくす

規模、美しさともに世界最高級と言われる阿蘇カルデラ。その中に悠然とたえず阿蘇五岳。阿蘇の魅力を語る時、人々が口にするのはまずそのすばらしい自然である。しかしこの景色は、人々が自然と共存することで作り上げてきたもの。古より、阿蘇の人々は自然を慈しみ、感謝する暮らしを脈々と受け継いできた。そうやって守られてきた「阿蘇」を、公共交通機関を使ってゆっくり巡り、商店街や農村での交流やガイド付きの史跡探訪、トレッキングを通して味わってもらう。それが、阿蘇地域が平成14年度から取り組む「スロウな阿蘇づくり・阿蘇カルデラツーリズム」の目的だ。

九州では、団塊世代の大量退職に向け、高まる国内の長期滞在型観光ニーズに対応するため、今年度2回目となる「おとなの長旅・九州」実

証事業が行われた。阿蘇地域は、これを「スローな阿蘇づくり」の一環と位置づけ、九州8地域や九州運輸局、民間の旅行代理店などとともに実証事業に参画。今年度は、阿蘇地域内の実験対象区域を拡大し参加者を募った。阿蘇地域を訪れた人たちは、トレッキングや散策などのプログラムに参加したり、フリータイムをのんびり過ごすなど、阿蘇を「これでもか」と味わいつくしたのである。

雄大な五岳を眺め、 草原を駆ける

阿蘇地域で用意されたプログラムは、「千年の草原を駆け抜けるホーストレッキング」の1環と位置づけ、九州8地域や九州運輸局、民間の旅行代理店などとともに実証事業に参画。今年度は、阿蘇地域内の実験対象区域を拡大し参加者を募った。阿蘇地域を訪れた人たちは、トレッキングや散策などのプログラムに参加したり、フリータイムをのんびり過ごすなど、阿蘇を「これでもか」と味わいつくしたのである。

「1週間は本当に短かった。あつという間でしたね」「あと1週間ぐらいいいてもいいくらい」。口々にそう言うのは、馬で草原を巡るホーストレッキングに参加した立花友克さんら。「とにかく草原を駆けるのは爽快で、すばらしかった」。横浜在住で、普段、乗馬クラブに通うという立花さんだが、「こんな広々としたところで乗るのは格別です」。

もちろんインストラクターが付いてくれるので、乗馬は全く初めてという人でも安心して参加できる。「私な

んか全く乗れなくて。でも最後は片手で乗れるようになったから、よかったわ」「ホントにいろいろ教えてもらった。2日間で、ちゃんと乗れるようになったからね」。初心者がステップアップする楽しみもある。

乗馬の合間には、街歩き、思い思いの食事どころを選んだの食べ歩き、杵島岳トレッキングなど「退屈する暇もない」日々を過ごした参加者たち。草原をわたる風をほほに受け、青空にそびえる五岳を眺めながらの乗馬。まさに「阿蘇でしか味わえない」楽しみだ。



乗馬の合間には、内牧温泉街や阿蘇神社近くの門前町商店街などの街歩きも楽しみの一つ。「地元の人とふれあえたのもよかった」と参加者の一人(写真は門前町商店街)



やわらかな日差しと、やさしい草原の風を感じながらゆっくりと馬で行く…。馬上でみると山影も草原もまた趣が違ってくる。



ホーストレッキング初日は、まずインストラクターについて外に出てみる。初めは恐ろしいが、とにかく乗ってみることが先決とか。



高岳山頂近くの尾根に立ち、阿蘇谷を見下ろしてカルデラの形をじっくりと眺める。

知られざる阿蘇を知る

高岳・中岳のふもとにある仙酔峡ロープウエー駅。ここから登る「中岳火口丘トレッキング」に参加したのは、福岡から参加した川島英美雄さんだ。北外輪トレッキングやホーストレッキングなど阿蘇を堪能してきた。「今まで阿蘇といえば、観光地を回って終わり。今回、阿蘇にこんなところがある」という驚



うっすらと雲に覆われているのは、通称「天狗岩」。高岳東峰へ行く途中、広大な火口跡を歩き、この巨大な一枚岩を目指す。



中岳山頂より阿蘇谷を眺める阿蘇自然案内人協会ガイド高村貴夫さん(右)と、モニターの川島英美雄さん。



火口西側の見学所に火山ガスで下山指示が出た場合でも、風向きによって火口東側に行く中岳・高岳登山コースは問題ないことが多い。

きがいつぱいありました」。あいにくの曇天ではあったが、元氣いつぱいの川島さんは、迫力の火口と中岳、高岳山頂を制覇。山頂付近に鎮座する巨大な岩「天狗の舞台」から、阿蘇谷の眺めも楽しんだ。「ガイドさんがすごく親切で、山のことについても、今まで知ってるつもりで知らなかったことが、たくさんありました」。次に長期滞在するときは、ぜひ農業体験が



葉を落とした木々から、木漏れ日が降り注ぐ。枯葉に覆われた水面に映る、青空や木々のシルエットが美しい。



マゼノ渓谷後に訪れた「押戸石の丘」。見渡す限りの草原の中に、突然巨石群が現れる不思議な場所だ。



大きな朴葉（ほおば）を手にする阿蘇自然案内人協会ガイドの湯浅陸雄さん（右）とモニターの遠藤葉子さん。



渓谷の倒木には、あちこちでヒラタケが鈴なり。ガイドに勧められ、収穫する遠藤さん。

「地獄温泉・垂玉温泉本格湯治の1週間」に参加したのは、北九州からやってきた南充子さんと、京都から訪れた近藤比奈子さんだ。ふたりはこの日、南外輪の「ブナ原生林トレッキング」に参加。「宿のもてなしが気持ちいいんです。タベは、部屋にケーキ

宿のもてなしに感激

してみましたと目を輝かせた。横浜から来た遠藤葉子さんは、北外輪の「草原と溪流トレッキング」に参加。人生初の九州訪問を果たした彼女は、中岳火口見学や内牧温泉街の食べ歩きツアーも楽しんだ。この日は枯葉に彩られた「マゼノ渓谷」と草原を一望できる「押戸石の丘」を歩いた。思い切つて主婦業を休んできたが、来てよかったと笑う。「ガイドさんがいてくれるからこそ味わえる醍醐味がありますね。方言が時々わからないけど、それも楽しいですよ」。

してみたとい目を輝かせた。横浜から来た遠藤葉子さんは、北外輪の「草原と溪流トレッキング」に参加。人生初の九州訪問を果たした彼女は、中岳火口見学や内牧温泉街の食べ歩きツアーも楽しんだ。この日は枯葉に彩られた「マゼノ渓谷」と草原を一望できる「押戸石の丘」を歩いた。思い切つて主婦業を休んできたが、来てよかったと笑う。「ガイドさんがいてくれるからこそ味わえる醍醐味がありますね。方言が時々わからないけど、それも楽しいですよ」。



ブナの原生林に積もる落ち葉。参加者はみな、子どものように足を振り上げて歩き、枯葉の音を楽しんだ。



北九州から参加したモニター南充子さん(左)と、京都から来た近藤比奈子さん。



阿蘇自然案内人協会ガイド古澤順正さん(先頭)。



ガイド古澤さんも「樹齢はわからない」というブナの巨木。苔むした堂々とした風格はまさに森の王。

とコーヒーを持ってきてくれたんですよ。短い旅だったから、こうはいきませんよね」と語る南さんの横で、近藤さんもうなずいた。「あちこちをゆつくりと歩いて、阿蘇の雄大さと優しさを感じることもできました。長期滞在じゃないと味わえないものだと思います」

東京から訪れた富沢賀世さんは、同じく、「垂玉温泉」に滞在しながら、「阿蘇神話街道めぐり」に参加。日本三大下り宮のひとつである草部吉見(くさかべよしみ)神社を皮切りに数社を訪問した。森深くたたずむ神社の境内に立っていると、「神様を感じる」と富沢さん。「こんなところ、ガイドさんがいなければ来れませんよね」。ゆつくり旅をしてみたいという希望がかなったと、うれしそうにほえんだ。

「小さな商店で買ったお弁当が、すごく安くておいしくて。こんなの毎日買いたいわよね」と南さん。たとえ期限



草部吉見神社の階段。階段の上に鳥居があり、下に社殿がある「下がり宮」だ。



草部吉見神社の鳥居前で説明をする阿蘇自然案内人協会ガイドの山村将護さん(左)。



境内を散策する参加者たち。人懐こい犬も出迎えてくれた。

付きでも、そこに「住んで」みれば、その土地の暮らしを実感できる。いつもと違う時間の流れが体を癒す。地元の人々との触れ合いが心を和

ませる。「スローな阿蘇」でこそ、阿蘇の真の魅力が味わえるのだ。

Column.1



阿蘇地域に、九州連携のけん引役を期待

九州運輸局 企画観光部長
山口 一朗 さん

「おとなの長旅」は、昨年に続き今年で2回目。旅行者が地域の人々と触れ合い、地域の自然をゆったりと味わい、おいしい物を食べ歩く長期滞在型観光は、地域を豊かにすることにもつながります。すばらしい景観や温泉など、阿蘇の貴重な観光資源は、韓国人観光客にも人気です。「阿蘇カルデラツーリズム」をはじめ、阿蘇の取組みは、他地域をリード。阿蘇地域には、九州観光における地域連携のけん引役になって欲しいと期待しています。

Column.2



阿蘇ロングステイを“旅の定番”に

「おとなの長旅・九州」
阿蘇地域コンシェルジュ
石松 昭信 さん

阿蘇での長期滞在型観光を楽しんでもらうためには、市町村単位ではない、阿蘇地域全体を網羅できる相談窓口の整備が急務だと感じています。また、長く滞する場合、旅館のごちそうばかりでは飽きるの、旅館外の食事店開発も必要。そして、阿蘇地域の取り組みは、公共交通機関を使って自由に空き時間を楽しんでもらうことも目的の一つにしています。もともと地元の生活の足であるバスや鉄道などの公共交通機関を、観光客も利用しやすいよう整備しなければなりません。阿蘇でのロングステイが「旅の定番」となるよう、がんばりたいと思います。



今回の「おとなの長旅」阿蘇地域では、滞在中何度でもバス利用ができる「おとなの長旅・フリーパス」を発行した。



路線バスで集合場所に到着した参加者たち。

くつろぎの宿

「おとなの長旅・九州」で、
阿蘇へ来訪した参加者たち
が宿泊した宿。「もてなしが
とても気持ちよかった」「仲
居さんとも仲良くなって、
長旅の良さを満喫した」と
いう声が聞かれました。

地獄温泉 清風荘

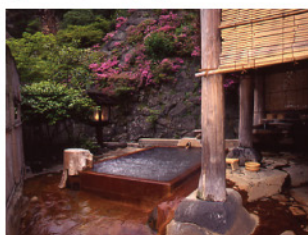
湯治場として江戸時代より親しまれてきた温泉宿で、まさに山奥の「秘湯」という名にふさわしい風格が漂っています。皮膚病や婦人病、リウマチに効く泥湯「すずめの湯」をはじめ、男性用露天風呂を上から見る位置にある女性用露天風呂「仇討ちの湯」などユニークなお風呂もあり。猪鍋やキジ鍋など山の恵も楽しめます。



住所：阿蘇郡南阿蘇村河陽 2327
TEL：0967-67-0005
<http://jigoku-onsen.co.jp/>

垂玉(たるたま)温泉 山口旅館

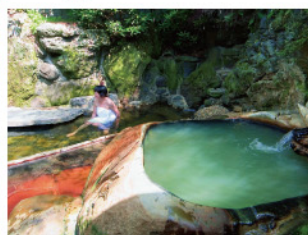
江戸時代末の創業で、北原白秋や与謝野鉄幹ら「五足の靴」一行や、野口雨情も投宿した歴史ある温泉宿。宿のそこかしこに、まるで時が止まったようなレトロな雰囲気が漂っています。温泉は、神経痛や疲労回復、糖尿病に効果がある単純泉。「金龍の滝」の滝つぼ近くに位置する露天風呂は、四季折々の風情を見せてくれます。



住所：阿蘇郡南阿蘇村河陽 2331
TEL：0967-67-0006
<http://www.tarutama.jp/>

内牧温泉 湯の宿 入船

今年、客室と食事処をリニューアルした創業六十余年の宿。和の情緒たっぷりの外観はそのままだに、客室はフローリングとベッドという和洋折衷。食事処はゆっくりとくつろげる掘りこたつ式個室になりました。遠赤外線効果のある内湯「六万石の湯」や、どっしりとした岩が配置された風情ある露天風呂も源泉のままの天然掛け流し。



住所：阿蘇市内牧 834-2
TEL：0967-32-0781
<http://onsen.aso.ne.jp/yado-syokai/irifune/irifune1.html>

内牧温泉 蘇山郷

純和風のこの宿には、昭和7年、与謝野鉄幹・晶子夫妻が宿泊した部屋「杉の間」がそのまま美しく残されています。部屋から眺める日本庭園にも心が落ち着きます。温泉は、49度の源泉をくみ上げ、湯船に注がれるころにはちょうどよい温度になるという自然の恵みそのまま。加熱していない、やわらかな泉質が人気です。



住所：阿蘇市内牧 145
TEL：0967-32-0515
<http://www.sozankyo.jp/>

内牧温泉 旅館 泰山荘

地元産の材料をふんだんに使った料理が、県内外からの宿泊客に人気の宿です。客室は、温泉の後畳の上で大の字になりたい純和風。家庭的な雰囲気を大事にするもてなしも、長期滞在にぴったりです。天然温泉のお風呂は肌がスベスベになると評判で、お風呂目当てのリピーターも多いとか。



住所：阿蘇市内牧宝泉 1164-2
TEL：0967-32-0631
<http://onsen.aso.ne.jp/yado-syokai/taizan/top.html>

